

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

SUBSCRIPTION CONCERTS

2024

5

MAY

第760回
東京定期演奏会

Kahchun
WONG



Gustav
MAHLER



サントリーホール
2024年5月10日(金)19:00
5月11日(土)14:00

日本フィルハーモニー交響楽団

演奏中のマナーにご協力をお願いいたします。

電源 OFF	アラームOFF 電源OFF	演奏中は携帯電話や時計のアラームなどデジタル機器の電源はお切りください。
音にご注意を	ビニール袋	マジックテープやファスナーの音 靴にしまう、または下へ置くなど物音がたないようにご配慮ください。
	船の袋	鈴などアクセサリーがついたストラップ 靴にしまうなど鳴らないようにご配慮ください。
	補聴器の音	ハウリングをおこさないよう、しっかりと装着し、適切な音量に調整をお願いいたします。
声と拍手にご注意を	私語 せき	演奏中の私語はご遠慮ください。咳をする時はハンカチなどで口を覆って響かないようご配慮を。また、拍手やブラボーは指揮棒がおりてから最後の余韻までお楽しみください。
撮影禁止	録音禁止 録画禁止 写真撮影禁止	演奏中の録音・録画・写真撮影は、固くお断りしております。 ※演奏終了後に写真撮影可能な公演がございます。 詳細は公演時にご案内いたします。
周囲にご配慮を	身を乗り出さない つかの広い/高さのある帽子	席から身を乗り出したり、着用している帽子が後ろの席の視界を遮っていることもございます。周囲にご配慮を。

終演時のカーテンコールで写真撮影が可能です。
撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。

撮影に関しては以下のルールを守ってくださいますようお願い申し上げます

- ・アンコール演奏中の撮影はご遠慮ください
- ・スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影はご遠慮ください
- ・フラッシュの使用はお控えください
- ・動画の撮影はお控えください
- ・撮影の際、手を高く上げるなど周りのお客様のご迷惑になる行為にご注意ください
- ・自席にご着席のまま撮影をお願いいたします
- ・SNS等に掲載する際は、ほかのお客様のうつりごみにご注意ください
- ・自撮り棒などの使用はお控えください
- ・演奏中はスマートフォン、携帯電話の電源をお切りください(録音・録画は違法行為です)

SNSに投稿いただく際は、ハッシュタグ #日本フィル #japanphil をつけてください!

目次

CONTENTS



©Angie Kremer

❖ プログラム	4
❖ 出演者プロフィール	6
❖ プログラム・ノート- 澤谷 夏樹 -	7
❖ 次回東京定期演奏会 指揮者にインタビュー 岩野 裕一編	10
❖ 写真プレイバック- 2024年3月~4月 -	12
❖ あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、あらゆる地域へ、世界へ	13
❖ 今後の日本フィル出演公演	14
❖ 2024/2025シーズン 東京・横浜定期演奏会	16
❖ 2024年秋季セット券	18
❖ 感動の共有 ~ご支援のお願い~	25
❖ 日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名	26
❖ パトロネージュご芳名	30
❖ 第50回夏休みコンサート2024	32
❖ Member's TVU CHANNEL 配信一覧	33
❖ インフォメーション	34
❖ 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 名簿	35

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA 760th SUBSCRIPTION CONCERTS

日本フィルハーモニー交響楽団
第760回 東京定期演奏会



マーラー：交響曲第9番 二長調

約81分

Gustav MAHLER: Symphony No.9 in D-major

休憩はございません。予めご了承ください

指揮：カーチュン・ウォン [首席指揮者]

Conductor: Kahchun WONG, Chief Conductor

コンサートマスター：田野倉 雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：門脇 大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

サントリーホール Suntory Hall

2024年5月10日(金)午後7時開演 / 11日(土)午後2時開演
7:00p.m., Friday, 10th & 2:00p.m., Saturday, 11th May, 2024

■ プレトーク「本日の聴きどころ」

東京定期演奏会では、毎回これから始まるコンサートの聴きどころや楽曲解説、アーティストの素顔等を紹介いたします。今月は澤谷夏樹氏です。

金曜日 / 18:30 ~

土曜日 / 13:20 ~

主催 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援：シンガポール共和国大使館

協賛 / 株式会社ウテナ 鹿島建設株式会社

助成：文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

三井不動産株式会社

ホッカンホールディングス株式会社

UBE株式会社



公益財団法人アフィニス文化財団

公益財団法人朝日新聞文化財団

公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団

表紙イラスト / 小澤 一雄

ご自宅で
公演の感動を
何度でも

5月10日(金)公演はライブ&アーカイブ配信あり!

販売期間：~2024年6月9日

視聴期間：1か月

料金：1,000円

Member's TVU CHANNELにて配信
<https://members.tvuch.com>



現在配信中の公演はP33をご覧ください

*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。ご要望の方は主催者までお申し出ください。



Conductor

指揮

カーチュン・ウォン [首席指揮者]

Kahchun WONG, Chief Conductor

©Ayane Sato

日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者を務めるシンガポール出身のカーチュン・ウォンは、その舞台における圧倒的な存在感と東洋と西洋の芸術的遺産を探索し続ける思慮深さにおいて国際的に高く評価されている。2025年秋からはサー・マーク・エルダー氏の後任として、英国マンチェスターに本拠を置くハレ管弦楽団の首席指揮者兼アーティストック・アドバイザーに就任することが決定している。

2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝。ニューヨーク・フィルハーモニック、クリーヴランド管弦楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラに客演。

ウォンは多くの現代作曲家と強い信頼関係を築いており、今シーズンはバービカン・センターでBBC交響楽団と共に細川俊夫の《祈る人》の英国初演、およびドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者就任記念演奏会のために特別に委嘱された、タイの作曲家

ナローン・プランチャルーンの《影の反映》の世界初演、また2022年には高名な導師でありインド人ヴァイオリニストであるカラ・ラムナスのために書かれた、レーナ・エスマイルの「ヒンドウスタンヴァイオリンのための協奏曲」をシアトル交響楽団演奏にて世界初演したほか、2019年にはニューヨーク・フィルハーモニックとタン・ドゥン（譚盾）の《火の儀式》の米国初演を指揮している。国内においては日本フィルハーモニー交響楽団との東京定期演奏会（サントリーホール）等にて伊福部昭、芥川也寸志、小山清茂、外山雄三らの作品を定期的に演奏している。2022年、東京オペラシティ財団の招聘により、武満徹の意欲的な作品《弧（アーク）》を中心とした管弦楽作品を集めた公演を大成功に導き、日本の主要批評家によってその年の最も優れた演奏会の一つに選ばれた。

プログラム・ノート 解説：澤谷 夏樹

■ マーラー：交響曲第9番 二長調

交響曲第9番二長調は、グスタフ・マーラー（1860-1911）の書き上げた最後のシンフォニーだ。作曲家は1909年から第9番に取り組み、翌10年に完成させた。マーラーの交響曲創作史は伝統的な構成を守る第1番に始まり、歌曲の楽章を含む第2番から第4番、純器楽の第5番から第7番、改めて声楽を導入した第8番と〈大地の歌〉を経て、純器楽に回帰する第9番へといたる。ただしこの歴史は一本道だったわけではない。器楽と声楽とをめぐる編成の相克、歌曲楽章のメッセージ、さまざまな音楽の引用による象徴、楽曲構成の堅持と破壊、複雑な改訂過程など、複数の道筋が入り組んでいる。だから第9番を「純器楽へ回帰」した「完成品」と考えるだけでは、この作品の実態を捉え損ねる恐れがある。

第1に、この交響曲は「完成」したのであるか。マーラーは、いったん書き上げた作品に手を入れ続ける作曲家のひとりだった。修正や改訂は、上演のためのリハーサル中や上演後、また印刷楽譜の校正刷の段階でもおこなわれる。こうした練り上げが、彼の創作姿勢の大きな特徴だ。しかし第9番（と〈大地の歌〉）に関しては、作曲家の存命中に浄書譜は

完成したものの、その初演（1912年6月26日、ウィーン）も初版楽譜の出版（同年）も、彼の死後におこなわれた。だから演奏や出版の過程で起こってもおかしくないマーラーの修正や改訂が、この作品では生じなかった。第9番はいまもって、ワーク・イン・プログレス（作品の生成過程をまさに作品として提示すること）の状態にある。

第2に、この交響曲は「純器楽作品」なのであろうか。声楽が加わらない点でそれは正しい。一方、引用による象徴性の問題を加味すると、必ずしも「純器楽」とは言えない。この交響曲の第1楽章はソナタ形式を採る。伝統的な純器楽交響曲の枠組みを守っているが、その運用はかなり特殊だ。

楽章のはじめに現れる断片の寄せ集めのような主題。主題を繰り返す際はその断片を組み替える。「伝言ゲーム」のようにそのつど単語や文節が入れ替わったりする。主題は繰り返されるたび姿を変える。この移ろいゆく過程にマーラーは、既存素材の引用、つまり「連想ゲーム」を埋め込んでいく。隣り合った音へと下行する音形を2回繰り返すテーマ。これは既作の歌曲の中でつねに「死」を喚起する役目を負ってきた。これが第9番の第1楽章の中で変形を繰り返すと、ヨ

ハン・シュトラウス2世のワルツ〈楽しみ人生を〉になり、ベートーヴェンの〈告別ソナタ〉になる。さらに進むと葬送行進曲風にもなる。「死」を仄めかした後、じょじょにその深みに沈んでいくかのようになり「連想ゲーム」は続く。

変形と引用を通してマーラーは、「回想」「惜別」「葬送」を描き、聴き手に「死」を想起させようとする。この作品は「伝言ゲーム」と「連想ゲーム」を合体させることで、外形上は純器楽でありながら、内容上は文学的な象徴性を大いに取り込んでいる。その意味で第9番は、「純器楽への回帰」というよりも、「器楽路線と声楽路線の融合」と考えたほうがよい。

ここで「第9」のジグクスに触れておこう。

交響曲には忌み数がある。「9」だ。発端はベートーヴェン。作曲家は1824年に交響曲第9番を完成させ、その3年後に世を去る。〈第九〉は最後の交響曲となった。その後、シューベルトもドヴォルジャークもブルックナーも、(数えかたによっては)9番目を最後の交響曲として、人生にピリオドを打っている。「第9」が交響曲作家の命を奪う。

マーラーはこのジグクスを気に病んだ。第8交響曲を完成させた後、9番目のシンフォニーへと筆を進めたこの時期、作曲家は「死」を強く意識し始めていた。幼い長女の死、みずからの心臓病。取り掛かった交響曲はよりによって第9番。

先達のいわれが頭をよぎる。マーラーは自作に「9」をつけるのをためらった。そこで9番目の交響曲から番号を取り除き、〈大地の歌〉と名付けることで、心中の不協和音を解決しようとした。「第9」ではないが、9番目の交響曲を無事に書き終えたことで、マーラーは安堵した。

話はこれで終わらない。続いて取り掛かった10番目の交響曲にマーラーは、「第9番」のナンバーを与え、首尾よく完成させた。ところが、11番目にあたる第10交響曲を書き上げることなく1911年、この世に別れを告げる。マーラーは結局、番号を“ごまかして”まで抗った運命に、絡め取られてしまった。

これが「第9」をめぐる事の次第である。留意しておきたいのは、マーラーが死に怯えながら交響曲第9番を作曲したわけではない、ということだ。最晩年ながら1909年から10年は、マーラーにとって内憂(健康上の問題)も外患(突発的な事件)もない平穏な時期にあたる。だから、第9番にありありと表れる「死」への眼差しは、怖れではなく、平たく言えば対象への興味、踏み込んで言えば思慕に基づいているように思われる。それは楽曲形式に如実に反映されている。

第1楽章 ソナタ形式風の設え。心臓の鼓動のように響く序奏、二長調の第1主題、二短調の第2主題と続く。展開部、再現部の冒頭にも序奏が登場するので、形式の区分は明確だ。先述の通りこ

の楽章は、「伝言ゲーム」(変奏技法)と「連想ゲーム」(引用技法)とを駆使して「死への眼差し」を深める。各主題を示したのち、それをさまざまに展開した上で元のモチーフに戻る「主題労作」や、主調から遠い調へと旅をして、また主調に戻る「ソナタの調プラン」を放棄し、前者を「伝言ゲーム」に、後者を「連想ゲーム」に置き換えているのだ。「生の回想」(シュトラウスの〈楽しみ人生を〉)も含め、それらすべてが「死」のイメージを喚起する役目を果たす。

第2楽章 軽やかな舞曲。ゆったりとした素朴なレントラー、テンポの速い荒々しいワルツ、きわめて遅い懐古的なレントラーの3つが、おおむね交互に現れる。3つめのレントラーでは冒頭楽章の第1主題を換骨奪胎し、ひととき「死」に目を向けるが、すぐに軽やかな舞曲の世界に戻る。

第3楽章「ロンド・ブルレスケ」 “ふざけた輪舞曲”の意。喧騒に満ちた音楽が先へ先へと突き進んでいく。現世を戯画化して表現するようなこうした楽想は、マーラーの得意とするところ。3度目のロンド主題の後、シンバルを合図に長調に移旋、安らかな部分に入る。ここで目立つのは、音程を上下に行き来する回音。「安息」を示す音型として当時、決まり文句となっていた。それも束の間、荒々しい音楽に戻る。

第4楽章「アダージョ」 ふたつの主題をそれぞれ変化させていく二重変奏曲。第2楽章では懐古的に、第3楽章では戯画的に現世を顧みたのち、ここでは冒頭楽章に示した「死への深い眼差し」を取り戻す。回音を中心に据えた短い序奏から、二度下行を骨格とする第1主題へ。このモチーフは第1楽章の第1主題を下敷きにしている。その後、〈亡き子をしのぶ歌〉第4曲の一部を3回にわたり引用する。それはじょじょに姿をはっきりとさせていくので、初めはよく分からないが、3度目には明確に聴き取れる。原曲でこの楽句は、我が子を失った父親が、子供はただ、あの太陽の輝く高みまで散歩をしているだけだ、と自分に言い聞かせる場面を表現する。第4楽章でマーラーは、変奏曲の形を取りつつ引用技法を用いることで、高く広い空間へと拡張していく「死の『輝かしい』イメージ」を示している。

楽器編成:ピッコロ1、フルート4、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン持替1)、E♭管クラリネット1、クラリネット3、バス・クラリネット1、ファゴット4(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、銅鑼、グロッケンシュピール、鐘、ハープ2、弦楽5部。

NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **761** 回

サントリーホール

2024年6月7日(金)19:00開演

8日(土)14:00開演

円熟のマエストロと
日本フィルが誇る若き才能

プレート
秋山 和慶氏 & 岩野 裕一氏
18:30~

13:20~

指揮: **秋山 和慶**

ホルン: **信末 碩才** [首席奏者]

ベルク: 管弦楽のための3つの小品 op.6
(リア編曲 室内アンサンブル版)

R.シュトラウス: ホルン協奏曲第2番 変ホ長調 AV132
ドヴォルジャーク: 交響曲第7番 二短調 op.70 B.141

※当初の予定から変更になりました。



©井村 重人

©Tokyo Symphony Orchestra

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございませんので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー！

秋山 和慶 編

きき手 岩野 裕一

今年、指揮者生活60周年を迎えた秋山和慶さんが、2年ぶりに日本フィルの東京定期演奏会に登場する。今回は50年ぶりの東京定期で究極のフレンチ・プロを披露したが、今回はベルク、リヒャルト・シュトラウス、そしてドヴォルジャークと、ロマン派後期の傑作を取り上げる。

—ベルクの「管弦楽のための3つの小品」は、本来は4管編成で書かれた大規模な作品ですが、今回はなんと、28名の奏者だけで演奏する「小編成版」を取り上げるそうですね。

日本フィルの事務局と相談してプログラムを決めるときに、「小編成版もありますが、どちらにしますか」と聞かれたのです。オリジナルの大編成版は指揮したことがあったので、「じゃあ、せっかくのチャンスだから、やったことのないほうを」と私が選びました。

*小編成版=1944年生まれのカナダの作曲家ジョン・リアが編曲したもので、2015年に初演。今回が日本初演となる。

—先生は今年83歳になられましたが、失礼ながら、新しい作品を勉強して指揮するのはしんどくないですか？

大阪フィルの指揮者だった頃、朝比奈隆先生から「秋山君、年をとったら、レパートリーを古典ものに絞らなければいいよ」とご助言いただいたこともあります。でも私は、新しい作品を指揮することに、心から喜びを感じるのです。確かに歳をとると、旅行するのも億劫だという人もいますが、新しい場所に行って、そこの空気を感じるのはとても楽しいことです。お客様にも、未知の作品であっても、まずは何も考えずに聴いてみてほしいと願っています。

—これぞ、先生の精神と肉体の若さの秘訣ですね。

シュトラウスのホルン協奏曲第2番も、実演で聴くチャンスが少ない曲ですが、日本フィルに信末碩才さんという若き名手がいると聞いて、一も二もなく賛成しました。そもそも、難曲過ぎてホルン奏者は吹きたがらない(笑)。この作品も、初めて聴くお客様でも必ず楽しめると思います。

—そういえば、先生は桐朋学園でホルンを吹いていたそうですね。

齋藤秀雄先生が「全員必ず何か楽器をやるように」ということで、1週間でなんとか音階が吹けるようになったら、すぐさま学生オーケストラの中に座らされて(笑)、飯守泰次郎君が下、私が上のパートを受け持ちました。指揮者になってから日本フィルのリハーサルに行ったら、ホルンの田中正大さんから「秋山君、どうしてホルンで入団しなかったんだ」とからかわれましたよ。

—当時の日本フィルは、どんなオーケストラでしたか？

ドイツ風の音を目指していたNHK交響楽団に対抗して創設された日本フィルは、アメリカのオーケストラのような機能的で軽やかな音が持ち味で、初めて聴いたときはその差にびっくりしたものです。桐朋の仲間や先輩も多く、気心の知れたよい雰囲気の中で指揮することができました。そうした温かい雰囲気は、昔もいまも変わっていませんね。

—今回、メインで取り上げるのはドヴォルジャークの「7番」ですね。

ドヴォルジャークの交響曲は9番や8番がおなじみですが、7番は私にとってぜひ指揮したい曲のひとつです。どの楽章も特徴があって、第1楽章と第4楽章はいかにも交響曲らしいハーモニーの展開とリズムの変化が素晴らしく、民謡風の第2楽章と舞曲の第3楽章からはチェコの匂いがぶんぶんとして漂ってきます。自分も指揮していて楽しいし、お客様も楽しい作品ですので、多くの方に聴いていただければ幸いです。

—今年是指揮生活60周年を迎えられたのですね。

桐朋を卒業して東京交響楽団の指揮者に就任したとたん、オーケストラがわずか半年で潰れてしまい、自主運営で飲まず食わず、昼飯がコッパンひとつでも雰囲気は明るかったです。若い人を中心に本当によく頑張った。演奏会の数だけはたくさんあって、明けても暮れても勉強、本番、勉強、本番の毎日でしたが、あのとき必死に勉強したことが、私の血と肉になったのです。

日本フィルも苦難の歴史がありましたね。こうした時間の経過を経て、いまがあるのだということ、若い人たちにも知っておいてほしいと思います。

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

2024／2025 シーズン定期会員募集中



2024／2025シーズン
日本フィルハーモニー交響楽団
東京定期演奏会

会場／サントリーホール
金曜日／19:00開演 土曜日／14:00開演
プレトーク「本日の聴きどころ」
金曜日／18:30～ 土曜日／13:20～



2024／2025シーズン
日本フィルハーモニー交響楽団
横浜定期演奏会

会場／横浜みなとみらいホール
土曜日／17:00開演
オーケストラ・ガイド／16:20～

2024 9 September	【第763回】 6日(金)、7日(土)	指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者] ブルックナー: 交響曲第9番(コルヌ校訂版)
2024 10 October	【第764回】 18日(金)、19日(土)	指揮: 小林 研一郎 [桂冠名誉指揮者] ピアノ: 高木 竜馬 ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番 ブラームス: 交響曲第1番
2024 11 November	【第765回】 1日(金)、2日(土)	指揮: オーボエ: フランソワ・ルルー ラフ: シンフォニエッタ メンデルスゾーン(タルクマン編曲): 《無言歌集》より メンデルスゾーン: 交響曲第3番《スコットランド》
2024 11 November	【第766回】(12月公演分) 29日(金)、30日(土)	指揮: 沖澤 のどか ピアノ: セドリック・ティベルギアン ブラームス: ピアノ協奏曲第2番 シューマン: 交響曲第2番
2025 1 January	【第767回】 17日(金)、18日(土)	指揮: 山田 和樹 ヴァイオリン: 周防 亮介* エルガー: 行進曲《威風堂々》第1番 ヴォーン=ウィリアムズ: 揚げひばり* エルガー: 交響曲第2番

2025 3 March	【第768回】 7日(金)、8日(土)	指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者] ソプラノ: 吉田 珠代 メゾソプラノ: 清水 華澄 合唱: 東京音楽大学 マーラー: 交響曲第2番《復活》
2025 4 April	【第769回】 11日(金)、12日(土)	指揮: アレクサンダー・リーブライヒ ヴァイオリン: コリヤ・ブラッハー ハイドン: 交響曲第79番 ポリス・ブラッハー: ヴァイオリン協奏曲 アイヴズ: 答えのない質問 R.シュトラウス: 交響詩《ツァラトゥストラはかく語りき》
2025 5 May	【第770回】 9日(金)、10日(土)	指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者] ピアノ: スティーヴン・ハフ 芥川也寸志: エローラ交響曲 プリテン: バレエ音楽《バゴダの王子》組曲 ブラームス: ピアノ協奏曲第1番
2025 6 June	【第771回】 6日(金)、7日(土)	指揮: ガボール・タカーチ=ナジ チェロ: ミクローシュ・ペレーニ ドヴォルジャーク: チェロ協奏曲 ブラームス: ハイドンの主題による変奏曲 モーツァルト: 交響曲第41番《ジュピター》

秋季(全5回) 発売日 【秋季】2024年5月30日(木)発売
S席 ¥29,000 A席 ¥23,000 B席 ¥20,000 C席 ¥18,000 P席 ¥15,800 Ys席 ¥9,000
春季(全5回)
S

2024年秋季のセット券は2種類!

お得な秋季名曲コンサート2公演セット券!

S席セット ¥11,000 A席セット ¥9,000

2024年
6月12日
(水) 発売

※セット券は各種会員の割引特典は併用できません。予めご了承ください。

1 第406回名曲コンサート

サントリーホール

2024年 9月15日(日) 14:00 開演

指揮:原田 慶太楼 ヴァイオリン:辻 彩奈

ジェニファー・ヒグドン:ファンファーレ・リトミコ モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第4番《軍隊》

ショスタコーヴィチ:交響曲第5番

1回券 料金	S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,500 Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,000
-----------	---

1回券 発売日	2024年 6月25日(火) 発売
------------	----------------------

2 第408回名曲コンサート

サントリーホール

2024年 11月24日(日) 14:00 開演

指揮:ピエタリ・インキネン ヴァイオリン:神尾 真由子

グラスノフ:ヴァイオリン協奏曲 R.シュトラウス:アルプス交響曲

1回券 料金	S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,500 Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,000
-----------	---

1回券 発売日	2024年 8月30日(金) 発売
------------	----------------------

お得な東京オペラシティコンサートホール2公演セット券!

S席セット ¥11,000 A席セット ¥9,000

2024年
6月12日
(水) 発売

※セット券は各種会員の割引特典は併用できません。予めご了承ください。

1 東京オペラシティ特別演奏会

東京オペラシティコンサートホール

2024年 9月20日(金) 19:00 開演

指揮:カーチュン・ウォン[首席指揮者] ピアノ:ゲルハルト・オピッツ

ブラームス:ピアノ協奏曲第2番 チャイコフスキー:交響曲第4番

1回券 料金	S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,000
-----------	--

1回券 発売日	2024年 6月25日(火) 発売
------------	----------------------

2 東京オペラシティ特別演奏会

東京オペラシティコンサートホール

2025年 1月26日(日) 14:00 開演

指揮:藤岡 幸夫 フルート:Cocomi

武満徹:組曲《波の盆》 モーツァルト:フルート協奏曲第2番 ルグラン:交響組曲《シェルブールの雨傘》

1回券 料金	S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,500 Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,000
-----------	---

1回券 発売日	2024年 10月23日(水) 発売
------------	-----------------------



utena
Moisture
ウテナモイスチャー



お求めはお近くのスーパー、ドラッグストア等で。

自然派のロングセラー アロエエキス配合スキンケア

ウテナ モイスチャーは1983年生まれ いつもずっと あなたのそばに

utena
咲かせよう、まだないキレイを。

株式会社 ウテナ
〒157-8567 東京都世田谷区南烏山1-10-22
お客様相談室 0120-305411 www.utena.co.jp

【お申込み】 日本フィル・サービスセンター TEL:03-5378-5911(平日10時-17時)
日本フィルeチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp> (24時間購入可能)